

## 最近の症例から（6） ——多発性脂肪腫——

井口光世，村田智明

松本歯科大学 口腔外科学第2講座（主任 山岡 稔 教授）

患者：63歳，男性

初診：昭和63年6月6日

主訴：両側舌縁部の腫瘍

家族歴：特記事項なし

既往歴：昭和41年，胃悪性腫瘍の診断にて切除術を施行される。昭和46年急性肝炎にて約2か月入院加療，昭和48年脳卒中にて開頭術を施行され約4か月入院加療する。また昭和62年12月よりアルコール依存症にて現在まで入院加療中である。

現病歴：昭和62年1月頃，両側舌縁部に数個の小腫瘍に気付いたが，自覚症状を認めないため放置していた。同年5月頃より義歯にてしばしば腫瘍を噛むため某歯科医院を受診して紹介にて当科を受診した。

現症

全身所見：体格中等度，栄養状態は比較的良好。脳卒中の後遺症による軽度の言語障害と手指の振戦を認める。

局所所見：顔貌所見は特記事項なし。顎下リンパ節は左右側共に小豆大1個触知，いずれも可動性で圧痛は認められなかった。

口腔内所見としては，舌両側側縁部に健康粘膜で被覆された黄赤色の半球状，弾性軟の米粒大から大豆大，可動性の腫瘍を多数認め，圧痛や舌運動障害等は認められなかった（写真1，2）。

臨床検査所見：血液化学検査にてGOTの軽度上昇とALPの上昇，またBUNの低下を認めた（表1）。

臨床診断名：多発性脂肪腫



写真1

写真 2



表 1 : 初診時臨床検査成績

(血液一般)	
白血球数	81×10 <sup>2</sup> /μl
赤血球数	470×10 <sup>4</sup> /μl
血色素量	13.2g/dl
ヘマトクリット値	41.7%
血小板数	21.7×10 <sup>4</sup> /μl
血沈値	7 mm/hr

(血液化学)		(血清)
TP	7.5g/dl	CRP (-)
T-BiL	0.6mg/dl	
GOT	36u/l	
GPT	41u/l	
LDH	330u/l	
ALP	277u/l	
LAP	39u/l	
T-CHO	160mg/dl	
Glucose	103mg/dl	
BUN	9mg/dl	